

八 幡 神 社 (川 島)

① 所在 庄原市東城町川島650番地

② 祭神 ほんだわけのみこと 品陀和気命 たらしなかつひこのみこと 帯中津彦命 おきながたらしひめのみこと 息長帯比売命 たけしうちのみこと 武内命 たけもちのみこと 武以命

(相殿神) おおくにぬしのみこと 大国主命 くにしのかみ 国司神

③ 例祭 10月29日

④ 境内地 5313坪

⑤ 由緒 創立年代不詳。往古より現境内の裏山（宮山と称す）中腹に山の神として祀り来り、文和元年（1352年）に宇佐八幡宮の御分霊を勧請したと伝える。当社は奴可郡の3八幡宮の一つとして、川島村、森村、田殿村、菅村、山中村、始終村、未渡村、田黒村の八ヶ村の大氏神と称していた。なお、明治22年に6村合併により出来た八幡村の名の由来となる。また、昔より社領50石ありしを福島正則に没収されたが、今も神田と称えて不浄を禁じる地が残っている。神社の向い4～5町の所には『鳥居が段』と称する地名が残り、往昔の鳥居のありし所という。その付近に存する小仏堂は、朝日山万松寺と称し、かつては当神社の別当寺であったという。

⑥ 神社の社叢は杉の大木が林立しているが、かつては広島県の母樹林として採種が行われていた。

⑦ 社叢には、胸高幹囲が広島県第1位の杉の巨樹がある。



